

『移民研究年報』執筆要領

2018年6月作成
2021年6月修正

投稿規定と投稿から出版までのスケジュールおよび執筆の形式については、最新の『移民研究年報』あるいは日本移民学会ホームページ (<http://imingakkai.jp>) にて確認して下さい。

I. 原稿の形式と注意事項

- 記述言語： 日本語を基本とする。英文での投稿も認めるが、事前に編集委員会に受領の可否を確認すること。
- 和文書式： 文字は明朝体 11 ポイント（註・参考文献も）。ページ書式は 38×32行。後掲の「IV. 原稿執筆の諸注意」に則った書式とすること。
- 英文書式： 文字は Times New Roman、11 ポイント。
- 判型： A4。
- 電子データ： 「.pdf」形式（Adobe 形式）を基本とする。
- 注意： 図表がある場合は、図表も含めて印刷する。

II. 原稿の構成と分量

論文の場合： 和文原稿（17 頁）と英文原稿（要旨）（1 頁）。

和文原稿（17 頁）： 下記 5 項目をこの順に 1 行ずつ空けて合計 17 頁以内で作成する。17 頁を超える場合は原則として受理されない。図表も含めて計算すること。

提出原稿には本文中においても氏名・所属・肩書など投稿者が特定できる文言は記入しない。

1. 和文題名： 4行以内。
2. 和文要旨： 要旨本文 13 行以内と和文キーワード（3 個必須）。
3. 原稿本体： 図表も含む
4. 註
5. 引用文献

英文原稿（要旨）（1 頁）： **必ずネイティブ・チェックを受けてから提出する。**

6. 英文題名： 35 単語以内。
7. 英文要旨： 要旨本文 500 単語以内と英文キーワード（3 個必須）。

研究ノートの場合： 和文原稿（11 頁）と英文原稿（要旨）（1 頁）

和文原稿（11 頁）： 下記 5 項目をこの順に 1 行ずつ空けて合計 11 頁以内で作成する。11 頁を超える場合は原則として受理されない。図表も含めて計算すること。

提出原稿には本文中においても氏名・所属・肩書など投稿者が特定できる文言は記入しない。

1. 和文題名： 4行以内。
2. 和文要旨： 要旨本文13行以内と和文キーワード（3個必須）。
3. 原稿本体： 図表も含む
4. 註
5. 引用文献

英文原稿（要旨）（1頁）：必ずネイティブ・チェックを受けてから提出する。

6. 英文題名： 35単語以内。
7. 英文要旨： 要旨本文500単語以内と英文キーワード（3個必須）。

III. 原稿の提出

1. 事前申込み： 8月末まで

投稿希望者は日本移民学会編集委員会および編集委員長宛にE-mailで事前申込みを行う。その際、氏名、所属、論文／研究ノートの種別、仮論文題目、使用言語を伝達する。

2. 投稿期間： 9月15日～9月30日（当日消印有効、締切厳守）

投稿希望者は提出ファイル一式（下記①～③）をE-mailにて期限までに編集委員会宛に送信する。（ファイルはPDF形式が望ましい。）

ただし原稿の内容によっては、紙での入稿を要請することがある。

- ① 申込書： ホームページからダウンロードして記入する。印刷は1部。ファイル名は「[投稿者氏名]○○号申込書.pdf」とする。

（例）山田太郎28号申込書.pdf

- ② 原稿： 詳細は本執筆要領に従う。ファイル名は「[題名の先頭10文字全角].pdf」とする。

（例）戦後70年の中南米に.pdf

原稿には本文中においても氏名・所属・肩書など投稿者が特定できる文言は記入しない。

- ③ 当該年度の年会費支払記録。ファイル名は「[投稿者氏名]年度領収書.pdf」とする。

（例）山田太郎2021領収書.pdf

ファイル形式は.jpg（写真）でも良い。また、学会webシステム（e-naf）の学会費納入履歴表示コピーでも良い。

3. 一次審査： 10月1日～11月下旬

各原稿について複数の専門的査読者（レフェリー）による審査を行い、論文もしくは研究ノートとしての採否を決定する。場合によっては訂正・加筆を求めて仮採択とすることもある。いずれにせよ、審査結果は、11月末を目処に編集委員会より各投稿者に連絡する。

4. 原稿再提出： 12月下旬

仮採択を受けた投稿者は修正済み原稿をE-mailにて期限までに編集委員会宛に送信する。（ファイルはPDF形式が望ましい。）ファイル名は「再提出[題名の先頭10文字全角].pdf」とする。（例）

再提出戦後70年の中南米に.pdf

原稿には本文中においても氏名・所属・肩書など投稿者が特定できる文言は記入しない。

5. 再審査： 1月頃

再審査の後、採否が決定される。審査結果は1月末までに編集委員会より各投稿者に連絡する。

6. 出版社入稿： 2月下旬～3月

採用を受けた投稿者は、最終原稿に、氏名・所属・肩書を最新の『移民研究年報』の書き方に従って加える。誤字脱字などを最終チェックした後、編集委員会宛にE-mailで次の2つのをファイルを送信する。

① ワード形式の本文ファイル「[投稿者氏名]○○号[題名の先頭10文字全角].pdf」とする。

(例) 山田太郎28号戦後70年の中南米に.doc

② ワード形式の英文要旨ファイル：英字で「[投稿者氏名]○○号・[題字の先頭10文字半角].doc」とする。

(例) YAMADA Taro28・In Central.doc

6. 校正： 2月～5月

原稿校正： 2～3月。編集委員による委員会内部での校正。

初校： 3月。ゲラ刷りの確認と訂正（誤字・脱字）。投稿者の作業。

再校： 4月。最終的な確認と訂正（誤字・脱字）。投稿者の作業。

念校： 5月。編集委員会の作業。

7. 発行： 6月30日

IV. 原稿執筆の諸注意

1. 文書作成ソフトについて

Microsoft Word の使用が望ましい（出版社入稿がワード形式であるため）。

2. 原稿のページ設定等

- 和文ページは、1行38字、1ページ32行。横書き。
- ページ番号は、右肩に付ける。
- 読点は「、」を、句点は「。」を用いる。
- 各段落の頭は、1字下げる。
- 各章題には「1 はじめに」「5 おわりに」のように番号をつける。
- 章番号は1、節番号は1-1、項番号は1-1-1と表記する。
- 外字は作らない。必要な場合は、■で入力し、プリントアウトした原稿の■の個所に赤字で該当文字を入れる。
- 文字の拡大、文字制御（アミカケ、書体変更）は行わない。

- 罫線は入れない。
- 欧文の書名はイタリック体を使う。
- ルビは、MS Word などワープロソフトのルビ機能を用いるか、あるいは「日暮里★につぼり★駅は上野の…」のように入れる。
- 文中にダッシュを使う場合は、全角1字分とする。ダッシュの前後にスペースを空けない。
- 引用文は、左側を2字分下げる。右側はそのまま。
- 図表は本文に出てくる順に番号をふる。本文中、その表を挿入する段落の最後に、1行スペースを空け、[表1]とマークを入れ、その下にも1行スペースを空ける。図表は別々にプリントアウトして、原稿の最後にまとめて添付する。
- 〔註〕(内容の付加的説明や但し書き等を加えるもの)は、本文中の当該個所の右肩に括弧にれた番号をふり、註自体は論文の最後にまとめてつける(Endnotes)。
例：排日移民法⁽¹⁾

3. 出典の示し方② 本文と註の中

- 出典は、本文中に括弧に入れて、(著者等 年号とカンマ 参照ページ数)のみを下記の例のように示す。
例：...と山元は分析する(1987a, 14)。しかし山元に対して厳しい批判が出ている(佐藤 1993, 57-8; 伊東・小林 1994, 25-30)。同様の批判はアメリカでも起きている(ロバート 1991=1995, 45-6; Smith 1997, 76)。世論もその批判に同調している(『読売新聞』1997年6月6日; 「反対の声」1997, 15)。
- 本文中の括弧の中に最初に入れる言葉は、著者名、編者名等、引用文献リストにおいて、その項目の最初の言葉と一致しなければならない。著者名や編者名が不明な雑誌記事等の場合は、その記事のタイトル(あるいはその最初の部分)等の最初の言葉を入れる。例えば、引用文献リストに「『羅府新報』,1937年7月25日。」と入れていたら、文中でも(『羅府新報』1937年7月25日)と書き入れるなどする。
- 複数の文献を参照した場合、それぞれをセミコロンで区切る。
(Light 1972, 50; Light and Wong 1975, 23; Rooster 1976, 2:150)
(Smith 1941, 45-49; 1944, 105)
- 同じ著者の、同じ年に出版された2編以上の文献を引用した場合には、年号にa, b,... を付けて区別する。
(Daniels 1988a, 30; 1988b, 12)
- 巻数とページ数が必要な場合、巻数とページ数をコロンで区切る。
(Wazinski 1989, 3:114)
- インターネットからの出典の表記は、本文中の括弧に、(著者、アクセス年月日)を記す。
- 欧文新聞を引用する場合は、下記のように日、月、年の順にする。
(New York Times, 25 Mar. 1995)
- リプリントされた文献を使う場合、初版の年号を[]に入れる。
(Kikuchi [1973] 1993, 134-136) (喜田 [1943] 1985, 12)

- **翻訳文献**を参照した場合、外国人の名前はカタカナで表す。また翻訳文献を参照した場合は、発行年を、原著と翻訳書の両方を＝で示す。
(ダニエルズ 1992, 45) (ダニエルズ 1993=1997, 55)
- 説明を付加するために文末につけた[註]の中で引用した資料・文献等の出典についても、本文中の出典と同様に扱う。

その他の例一覧

- (Blindsworth 1987, 125)
- (Foley 1955, 23, 43, 46-51)
- (Zipursky et al. 1959, 113)
- (Klein 1987, sec. 13.5)
- (Congress 1941, 2-5)
- (*Senate Journal* 1819, 9-19)
- (*New York Times*, 25 Mar. 1995)
- (外務省調査部 1992, 398)
- (簗原 2002, 40)
- (関谷・坂元 1998, 5)
- (ロバーツ 1991=1995, 45-50)
- (『羅府新報』1937年7月25日)
- (「座談会 いまこそ実現のとき」1971, 7)
- (アルゼンチン日本人移民史編纂委員会 1998, 223-224; Higa 1996, 76-80)

4. 出典の示し方② 引用文献リスト

- 本文と[註]で引用あるいは言及した文献はすべて、一番後ろに [引用文献]のリストとして載せる。
逆に引用していない文献はリストに載せない。
- 引用文献リストの各項目はすべて左側に寄せて書く。
- 引用文献リストにおいては、読点「、」と句点「。」は用いない。邦文文献でも、カンマ「,」とピリオド「.」を用いる。
- 引用文献リストは、著者、発行年、タイトル、出版地、出版社の順に記述する。
- 著者名（複数いる場合は最初の著者）は、姓（ラスト・ネーム）を先に出して記述する。

Bentley, Jerry H., Renate Bridenthal, and Anand A. Yang. 2005. *Interactions: Transregional Perspectives on World History*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- 引用文献リストは、**最初の単語（多くの場合は著者または編者の姓（ラスト・ネーム））のアルファベット順（ABC順）に並べる。**
- **同じ著者の文献が続く場合には、著者の部分を全角3字分のダッシュとピリオドにする。**
- **同じ著者の、同じ年に出版された2編以上の文献を入れる場合には、著者名を繰り返し表記した上で、年号に a, b, ... を付けて区別して並べる。**

Lee, Erika. 2007a. "Hemispheric Orientalism and the 1907 Pacific Coast Race

Riots.” *Amerasia Journal* 33(2): 19–47.

——. 2007b. “The ‘Yellow Peril’ and Asian Exclusion in the Americas.” *Pacific Historical Review* 76(4): 537–562.

- 日本語の本の副題は、全角1字分のダッシュで挟む。

斎藤眞編. 1973. 『日本とアメリカー比較文化論-2』, 南雲堂.

- 翻訳文献を利用した場合は、発行年を、翻訳書と原著の両方を、1996[1989]のように示す。

* 原著の方を[]に入れる。

タカキ, ロナルド. 1996[1989]. 『もう一つのアメリカン・ドリーム—アジア系アメリカ人の挑戦—』, 阿部紀子, 石松久幸訳, 岩波書店.

- リプリントされた文献の場合は、初版の年号と利用した版の年号を、[1973]1993 のように示す。

* 初版の方を[]に入れる。

Kikuchi, Charles. [1973] 1993. *The Kikuchi Diary: Chronicle from an American Concentration Camp*. Edited by John Modell. Urbana: University of Illinois Press.

- インターネットからの文献・資料も、他の文献・資料と同様に引用文献リストに含める。表記は、「著者名（機関名）. 文書発行年月日. 文書タイトル. 発行機関名. アクセス年月日<アドレス> .」の順に記す。長いアドレスは、スラッシュの後で行を変えることができる。下記6の例を参照のこと。

- 詳細は下記5、6の例を参照のこと。

5. 引用文献の一例

麻田貞雄. 1973. 「日米関係と移民問題」, 斎藤眞編『日本とアメリカー比較文化論-2』, 南雲堂, 163-210.

Bell, Reginald. 1935. *Public School Education of Second-Generation Japanese in California*. Stanford: Stanford University Press.

Bentley, Jerry H., Renate Bridenthal, and Anand A. Yang. 2005. *Interactions: Transregional Perspectives on World History*. Honolulu: University of Hawaii Press.

Bogardus, Emory. 1930. “A Race-Relations Cycle.” *American Journal of Sociology* 35: 612-17.

Bourdieu, Pierre. 1980. *Le Sens Pratiques*. Paris: Les Editions de Minuit.

Feng, Peter. 1999. “The State of Asian American Cinema: In Search of Community.” *Cineaste* 24 (4): 20-24.

Hansen, Arthur A., and David A. Hacker. 1974. “The Manzanar ‘Riot’: An Ethnic Perspective.” In *Voices Long Silent: An Oral Inquiry into the Japanese American Evacuation*, edited by Arthur A. Hansen and Betty E. Mitson. Fullerton: Oral History Project, California State University, 10-35.

Hawaii Hochi. 16 July 1923.

Hawaii Hochi. 1 August 1923.

日本移民学会『移民研究年報』執筆要領、2021年

Hawisher, Gail. Home page. University of Illinois Urbana-Champaign. 2006年3月26日アクセス <<http://www.english.uiuc.edu/facpages/Hawisher.htm>>.

飯田耕二郎. 2002. 「戦前ハワイにおける日本人の人口と居住地」, 『大阪商業大学論集』 124: 19-42.

Jewett, Sarah. 1997. *The Country of the Pointed Fires*. New York: Columbia University, Academic Information Systems, Bartleby Library, 1996. 2006年10月16日アクセス <<http://www.columbia.edu/acis/.bartleby/jewett>>.

Kikuchi, Charles. [1973] 1993. *The Kikuchi Diary: Chronicle from an American Concentration Camp*. Edited by John Modell. Urbana: University of Illinois Press.

Lee, Erika. 2007a. “Hemispheric Orientalism and the 1907 Pacific Coast Race Riots.” *Amerasia Journal* 33(2): 19-47.

—. 2007b. “The ‘Yellow Peril’ and Asian Exclusion in the Americas.” *Pacific Historical Review* 76(4): 537-562.

Nishimura, Earl. 著者によるインタビュー, ホノルルにて, 1993年8月30日.

New York Times. Editorial, 30 July 1990.

大城徹三. 1998. 『日本移民発祥の地コルドバーアルゼンチン・コルドバ州日本人百十年史ー』らぶらた報知社.

Papers Relating to the Foreign Relations of the United States, 1914. 1928. Washington, D. C.

「社説」, 『朝日新聞』, 1990年1月15日.

関谷滋・坂元良江編. 1998. 『となりに脱走兵がいた時代ージャテック、ある市民運動の記録ー』思想の科学社.

タムラ, リンダ. 1996. 『フッドリバーの一世たち』, 中野慶之編訳, メイナード出版.

U. S. Congress. 1941. *Declarations of a State of War with Japan, Germany, and Italy*. 77th Cong., 1st sess. S. Doc. 148. Serial 10575.

U. S. House. 1947. *Report of Activities of the National Advisory Council on International Monetary Problems to March 31, 1947*. 80th Cong., 1st sess. H. Doc. 365.

“Women in American History.” *Britannica Online* Vers. 98.1.1 Nov. 1997 Encyclopedia Britannica. 2006年3月10日アクセス <<http://www.britannica.com>>.

Waugh, Isami Arifuku. 1978. “Hidden Crime and Deviance in the Japanese-American Community, 1920-1946.” PhD. diss., University of California at Berkeley.

6. 文献リスト表記早見表 *実際は上記のようにアルファベット順で並べて下さい。

日本語文献

本の場合

大城徹三. 1998. 『日本移民発祥の地コルドバーアルゼンチン・コルドバ州日本人百十年史ー』らぶらた報知社.

関谷滋・坂元良江編. 1998. 『となりに脱走兵がいた時代ージャテック、ある市民運動の記録ー』思想の科学社.

タカキ,ロナルド.1996[1989].『もう一つのアメリカン・ドリーム—アジア系アメリカ人の挑戦—』,阿部紀子,石松久幸訳,岩波書店.

タムラ,リンダ.1996.『フッドリバーの一世たち』,中野慶之編訳,メイナード出版.

本の中の一論文

麻田貞雄.1973.「日米関係と移民問題」,斎藤眞編『日本とアメリカ—比較文化論—2』,南雲堂,163-210.

雑誌論文

飯田耕二郎.2002.「戦前ハワイにおける日本人の人口と居住地」,『大阪商業大学論集』124:19-42.

博士論文など

*外国語文献の「博士論文など」の部分参照.

新聞

*いずれの書き方でも、本文内の出典の書き方と整合性を持たせる。複数ある場合は、全体として書き方をなるべく統一する。

「社説」,『朝日新聞』,1990年1月15日.

『朝日新聞』.1980年7月17日朝刊.「王族の養女だった—ラオス流民メイランさん『迫害の恐れ』に有力証拠—」.

岡田九郎.1917年3月21日.「在紐日本美術家の作品展覧会を観て」,『紐育新報』.

インターネット

法務省入国管理局.2012年7月24日作成.自動化ゲートの運用について(お知らせ).法務省.2013年2月24日アクセス<http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00111.html>.

*「著者名(機関名).文書発行年月日.文書タイトル.発行機関名.アクセス年月日<アドレス>」の順に記す。長いアドレスは、スラッシュの後で行を変えることができる。

インタビュー

Nishimura, Earl. 著者によるインタビュー,ホノルルにて,1993年8月3日.

若菜久雄.著者によるインタビュー,マナドにて,2002年12月31日.

放送

NHK. BSドキュメンタリー.『祖国を奪われた人々—中南米日系人・強制連行の記録—』,2005年2月20日.再放送2005年6月12日.

外国語文献

本の場合

Bell, Reginald. 1935. *Public School Education of Second-Generation Japanese in California*. Stanford: Stanford University Press.

Bourdieu, Pierre. 1980. *Le Sens Pratiques*. Paris: Les Editions de Minuit.

Kikuchi, Charles. [1973] 1993. *The Kikuchi Diary: Chronicle from an American Concentration Camp*. Edited by John Modell. Urbana: University of Illinois Press.

本の中の一論文

Hansen, Arthur A., and David A. Hacker. 1974. "The Manzanar 'Riot': An Ethnic Perspective." In *Voices Long Silent: An Oral Inquiry into the Japanese American Evacuation*, edited by Arthur

A. Hansen and Betty E. Mitson. Fullerton: Oral History Project, California State University, 10-35.

雑誌論文

Bogardus, Emory. 1930. "A Race-Relations Cycle." *American Journal of Sociology* 35: 612-17.

Feng, Peter. 1999. "The State of Asian American Cinema: In Search of Community." *Cineaste* 24 (4): 20-24.

一次資料

Papers Relating to the Foreign Relations of the United States, 1914. 1928. Washington, D. C.

U. S. Congress. 1941. *Declarations of a State of War with Japan, Germany, and Italy*. 77th Cong., 1st sess. S. Doc. 148. Serial 10575.

U. S. House. 1947. *Report of Activities of the National Advisory Council on International Monetary Problems to March 31, 1947*. 80th Cong., 1st sess. H. Doc. 365.

博士論文など

Waugh, Isami Arifuku. 1978. "Hidden Crime and Deviance in the Japanese-American Community, 1920-1946." PhD. diss., University of California at Berkeley.

新聞

*いずれの書き方でも、本文内の出典の書き方と整合性を持たせる。複数ある場合は、全体として書き方をなるべく統一する。

Hawaii Hochi. 16 July 1923.

Hawaii Hochi. 1 August 1923.

New York Times. Editorial, 30 July 1990.

Kamm, Henry. 1977. "Vietnamese Escapees Wait, as World Turns a Deaf Ear." *New York Times*, 8 June 1977.

インターネットからの文献

Jewett, Sarah. 1997. *The Country of the Pointed Fires*. New York: Columbia University, Academic Information Systems, Bartleby Library, 1996. 2006年10月16日アクセス <<http://www.columbia.edu/acis/bartleby/jewett>>.

U.S. Department of State, NA, *Indonesia Country Specific Information*. 2009年6月17日アクセス <http://travel.state.gov/travel/cis_pa_tw/cis/cis_2052.html>.

"Women in American History." *Britannica Online* Vers. 98.1.1 Nov. 1997 Encyclopedia Britannica. 2006年3月10日アクセス <<http://www.britannica.com>>.

U. S. Congress. 26 Oct. 2001. An Act to deter and punish terrorist acts in the United States and around the world, to enhance law enforcement investigatory tools, and for other purposes (Uniting and Strengthening America by Providing Appropriate Tools Required to Intercept and Obstruct Terrorism Act [USA PATRIOT ACT] of 2001). 107th Cong., 1st sess. H. R. 3162. 2013年4月17日アクセス <<http://www.gpo.gov/fdsys/pkg/BILLS-107hr3162enr/pdf/BILLS-107hr3162enr.pdf>>.

Hawisher, Gail. Home page. University of Illinois Urbana-Champaign. 2006年3月26日アクセス <<http://www.english.uiuc.edu/facpages/Hawisher.htm>>.

以上